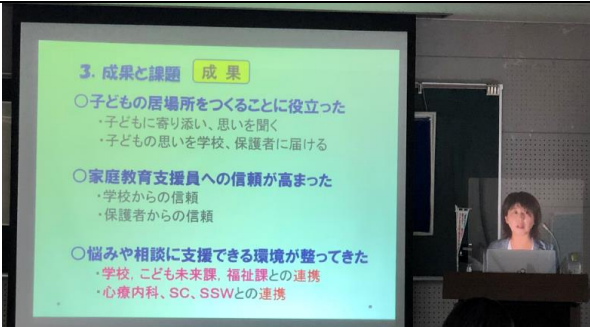


“鍛えて、ほめて、伸ばす！子どもの可能性”

～「鍛ほめ福岡メソッド」展開中！～



福岡教育事務所・社会教育室

事業報告	令和3年度福岡教育事務所管内「家庭教育支援セミナー」(オンライン開催)																	
期日	令和3年8月19日(木)																	
参加者	44名																	
日程	<table><tr><th>時 間</th><th>内 容</th></tr><tr><td>13:15～13:30</td><td>【受付】※Zoom入室時間</td></tr><tr><td>13:30～13:35</td><td>【開会行事】</td></tr><tr><td>13:35～13:50</td><td>【説明】「本セミナーの趣旨と進め方について」 福岡教育事務所社会教育室 社会教育主事</td></tr><tr><td>13:50～14:20</td><td>【実践発表】「大木町における教育と福祉の連携」 ～家庭教育支援員の取組を通して～ 発表者 大木町教育委員会こども未来課 家庭教育支援員 北島 理香 氏</td></tr><tr><td>14:20～15:20</td><td>【講話】「地域と学校をつなぐ社会教育の在り方」 講師 北九州市立大学文学部人間関係学科 教授 恒吉 紀寿 氏</td></tr><tr><td>15:20～15:35</td><td>【質疑応答】</td></tr><tr><td>15:35～15:40</td><td>【閉会】</td></tr></table>		時 間	内 容	13:15～13:30	【受付】※Zoom入室時間	13:30～13:35	【開会行事】	13:35～13:50	【説明】「本セミナーの趣旨と進め方について」 福岡教育事務所社会教育室 社会教育主事	13:50～14:20	【実践発表】「大木町における教育と福祉の連携」 ～家庭教育支援員の取組を通して～ 発表者 大木町教育委員会こども未来課 家庭教育支援員 北島 理香 氏	14:20～15:20	【講話】「地域と学校をつなぐ社会教育の在り方」 講師 北九州市立大学文学部人間関係学科 教授 恒吉 紀寿 氏	15:20～15:35	【質疑応答】	15:35～15:40	【閉会】
	時 間	内 容																
	13:15～13:30	【受付】※Zoom入室時間																
	13:30～13:35	【開会行事】																
	13:35～13:50	【説明】「本セミナーの趣旨と進め方について」 福岡教育事務所社会教育室 社会教育主事																
	13:50～14:20	【実践発表】「大木町における教育と福祉の連携」 ～家庭教育支援員の取組を通して～ 発表者 大木町教育委員会こども未来課 家庭教育支援員 北島 理香 氏																
	14:20～15:20	【講話】「地域と学校をつなぐ社会教育の在り方」 講師 北九州市立大学文学部人間関係学科 教授 恒吉 紀寿 氏																
	15:20～15:35	【質疑応答】																
	15:35～15:40	【閉会】																
活動の実際	【実践発表】 大木町教育委員会子ども未来課で行われている取組について、大木町家庭教育支援チーム家庭教育支援員の北島 理香氏に「大木町における教育と福祉の連携」と題しまして、実践発表をしていただきました。 前半は、大木町家庭教育支援チームの概要と家庭教育支援員の活動内容を、後半は、家庭教育支援員が実際に学校・行政・福祉とどのように関わっているのか、その具体例や、実際の子どもの様子を交えながら話していただきました。北島氏の話から、家庭教育支援を推進していく上で活かせる基礎的な内容を学ぶことができたのではないかと思います。「妊娠期から																	
	 【北島氏による実践発表の様子】																	

	青年期まで1つの課で情報を一元化」「継続してきめ細やかな支援の実施」という、大木町の家庭教育支援の考え方や、「チーム学校」の一員として学校・行政・福祉が連携し、家庭教育支援を実施するマネジメント方法等、参加者の方々それぞれの立場での考えを広げるきっかけになったのではないかと思います。
活動の実際	【講話・質疑応答】 北九州市立大学文学部人間関係学科教授の恒吉 紀寿氏に、「地域と学校をつなぐ社会教育の在り方」というテーマで講話をしていただきました。 まず、家庭教育支援・子育て支援の連携体制を包括する子ども・子育て社会の考え方・捉え方について、コロナ禍の問題も交えながら、学校・行政・福祉が連携し家庭教育支援を推進していく上で基礎的な内容を、大木町家庭教育支援チームの実践発表を基に具体的に話していただきました。 さらに、学校・行政・福祉が連携して家庭教育支援を推進していくために、それぞれの立場からどのような意識をもって取り組んでいけばよいか、明確にご教授いただきました。特に、「家庭教育支援・子育て支援とは家庭の負担を軽減すること」、「家庭教育支援・子育て支援の先にある、学校を核とした地域づくりという意識をもって」という言葉は、参加者にとって今後の取組や活動の参考になったのではないかと思います。 【恒吉氏による講話の様子】
全体をとおして	参加者アンケートでは、「子ども・子育ての問題（コロナ禍も含む）、子ども・保護者にとって必要なこと（支援）が何なのかということが分かり、勉強になりました」（生涯学習・社会教育主管課職員）、「毎日の支援の中で、対象者と専門機関との連携に重点をおいておりましたが、そこで終わりではなく地域までという意識を拡げる必要を感じました」（子育て支援主管課職員）、「子育て支援を出発として地域を考えることを再確認できてよかったです」（家庭教育支援員）など今後の活動のヒントを得られたことや、課題意識を高めることができたことが分かる記述が多く見られました。このことから本セミナーが、参加者にとって有意義なものになったのではないかと考えます。 福岡教育事務所社会教育室といたしましても、今後も管内市町に対しての支援や情報提供を行い、地域における子育て支援と家庭教育支援の連携体制の構築によるきめ細やかな家庭教育支援の推進に取り組んでいきたいと思ひます。